

平成 31 年度 学科 AO 入試 総合考査 問題用紙【武道教育学科】

試験時間：60分

.....
中学校保健体育科と高等学校保健体育科には目標があり、必修化となった武道についても、これらの目標の実現に貢献することが求められる。

資料は平成 22 年 3 月に文部科学省から示された「武道の指導の考え方」からの抜粋である。資料を読んで以下の問いに答えなさい。

問 1. なぜ、体育学習として武道を行うことが「世界に生きる日本人を育成していく立場からも有意義」であるのか。

その理由を資料にある「武道固有のものの方考え方」を参考にして、自分自身が行っている武道・伝統芸能に照らし合わせて具体的に説明しなさい。

問 2. 自分自身が行っている「武道固有のものの方考え方」を有する武道・伝統芸能を、より国際社会に理解されるためにどのような方法が考えられるか具体的に提言しなさい。

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動である。

また、武道固有のものの方考え方がある。

一つには、武道と欧米発祥のスポーツの性格には共通する部分が多いが、人間形成を目指す教育としての武道は欧米発祥のスポーツと異なるという主張がある。確かに、武道では伝統的に精神的な面を尊重する考え方が重視されており、より修養的あるいは鍛錬的な目的を強くもっている。

二つには、武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を特に重要視している。試合などの前の高ぶる気持ちを抑えたり、試合などにおける激しい攻防の後、まだ心理的な興奮が静まっていないときでも、その興奮を抑えて、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められる。「礼」を重んじ、その形式に従うことは、自己を制御するとともに相手を尊重する態度を形に表すことであり、その自己制御が人間形成にとって重要な要素であると考えられている。

三つには、武道における試合を行う者同士の関係は、「道」（人間としての生き方、在り方）を共に学び合う仲間同士であり、敵と味方という対立的なものではないという考え方がある。自分が勝つことのできた試合を成立させたのは、共に学び合う相手があったからであり、さらに互いが目指す目標は「道」を極めることであって、試合の勝敗のみにこだわることは慎むべきであるという考え方が重視されている。

いわば伝統的なものの方、考え方であるとともに、それに基づく伝統的な行動の仕方であるといえる。

このように、我が国の伝統的な運動文化である武道を、学校における体育学習の内容として重視していくことは、我が国の文化や伝統を尊重する観点はもとより、これからの国際社会において、世界に生きる日本人を育成していく立場からも有意義なことである。